芸術文化学科創設30周年によせて

平　川　文紀子
(㈱岡墨光堂修復部)

今回、芸術文化学科（旧美学美術史学科）創設30周年を迎えるにあたり、心よりお慶び申し上げます。また、これまでの美術指導にあたってこられた諸先生方に敬意の念と感謝の気持ちを込めてお祝い申し上げます。

私は去年までの６年間にわたって別府大学に在籍しましたが、その間の学部、大学院において、大変充実した学生生活を過ごすことが出来ました。芸術文化学科は理論、実技に加えて、スポーツにも力を注ぐバラエティーに富んだ所でした。私の入学のきっかけは柔道でした。阿部謙之先生は文武両道をモットーにされており、柔道だけでなく、本来の勉強にも力を注ぐように指導され、また年に２回成績表を渡す際には保護者のように心から檄を飛ばしてくださいました。阿部先生をはじめとする他の先生方のご指導もあって、柔道では全国ベスト８になることが出来ました。本当に大きな思い出として心に残っております。

文武両道の指導を受けたことで、学部に在籍中に大学で学ぶことの楽しさを、徐々に感じ始めました。

そんな中、私は今の仕事に結びつく大きな経験をしました。研修旅行でアメリカに行ったことです。東洋美術に興味を持っていましたので、仲嶺真信先生の引率のもと、たくさんの博物館を巡りました。アメリカの巨大な資本力によって収集された東洋美術は大きな感動をもたらし、私の心に印象深く残っております。そして、アメリカの文化財修復と日本の修復事情があまりにも異なっており、私はこれから先、文化財関係の職に進むためには自分自身かなり勉強不足だということを痛感しました。そして、この頃から漠然と修復師を目指しはじめました。大学院に進学するきっかけもこの経験からでした。

大学院では、篠﨑悠美子先生のもとで文化財に関して専門的に学びました。その間にも実技系の先生や文化財学科の先生方とも接する機会があり、たくさんのアドバイスと励ましをいただきました。現在、京都で文化財修復に携われるようになったのも、学部と大学院での経験のおかげと考えております。この時期の経験は私の財産となりました。

ここまで私のこれまでをつらつらと書いてきましたが、簡単に言い換えるならば、おおいに体を鍛え、おおいに遊び、おおいに学んだ６年間でした。

私は美学美術史学科のよいところだけを取って卒業した、と自負しております。たくさんの先生方にご指導いただき、自由な精神のなかで育んでいただきました。

現在夢をかなえ、京都に住み、文化財に囲まれ、修復師として、社会人としてスタートを始めました。時々思い出します。別府での生活や暖かい人たちに囲まれていた、去年までのことを。それはいつもやわらかい光の中にいるような、安心感のなかに別府があります。これからも私にとって別府での生活は財産であり、今を生きるためのエネルギーとなるでしょう。

最後にこれからの芸術文化学科の発展をお祈りしております。